

2025年8月6日

日本は、ジンバブエに対し、食糧支援を提供

日本政府は本日、国連世界食糧計画（WFP）に対し、130万米ドル（2億円）を拠出しました。これにより、WFPはジンバブエの3万2000人の弱い立場にある人々に対し、穀物、豆類及び植物油を含む食糧援助が可能になります。

山中晋一駐ジンバブエ大使は、「日本政府と在ジンバブエ日本大使館は、ジンバブエの食料不安を非常に懸念しています。この食糧援助が、弱い立場にある人々が食糧が不足する時期を乗り越える一助になることを願っています。また、全てのジンバブエ人が食料安全保障ニーズを満たせるよう、今後の支援を続けていくこととしています。」と述べました。

今回のWFPによる生産端境期援助プログラムは、最も弱い立場にあるコミュニティの需給ギャップを埋め、食料と栄養に係る安全保障がこれ以上悪化することを防ぐことを目指しています。

WFPジンバブエ事務所のバーバラ・クレメンズ代表は、「日本政府からのこの支援のおかげで、多くの家族は、飢餓が最も深刻な時期に次の食事を心配する必要がなくなります。この拠出金は、ジンバブエの人々との連帯を示すものであり、私たちは適切な食料が適切な人々に適切な時期に届くことを確実にすることに断固として取り組んでいます。」と述べました。

WFPは、生産端境期の支援を通じて、ジンバブエ政府の食料不足軽減戦略を支援し、最も弱い立場にある人々を食料不安から守ります。

メルシー・マルヴァ・ディナ公共サービス・労働社会福祉副大臣は、「ジンバブエの人々を支援するという日本のコミットメントに感謝します。この拠出金は、エマーソン・ムナンガグワ大統領の指示に従い、最も必要とする人々に食料が届き、誰も取り残されないようにするため、WFPとの継続的なパートナーシップを反映しています。」と述べました。

日本政府の継続的な支援は、日本、WFP及びジンバブエ政府の強固で永続的なパートナーシップを示すものです。日本は、過去6年間でWFPを通じて1,140万米ドルの食糧支援を提供してきました。

(署名式の状況)



ディナ公共サービス副大臣臨席の下、E/N 署名に臨む本使とクレメンス WFP 代表



E/N 等に署名を行う本使と
クレメンス WFP 代表



E/N 等を交換する本使と
クレメンス WFP 代表